

「福祉とは何か。」

私が高校に入って初めて福祉の授業で考えたことだった。その時の授業のプリントを振り返ってみてみると、私は「高齢者、障がい者、人の役に立つ仕事。」と書いていた。その時には具体的に説明できず、難しい問いだと感じた。しかし私以外にも多くの人がこの問いに明確な答えが思い浮かばないのではないかと思う。

私は将来、福祉に関わる仕事をしたいと思っている。中学校時代には目標が定まっていなかったが、高校で福祉について勉強するにつれ将来像が具体的にになってきた。それは障がい者福祉に関わる仕事に就きたいということである。この思いが強くなったきっかけは高校三年生の夏休みに行ったボランティアであった。それまで高齢者施設には何度か行ったことがあったが、障がい者施設に行ったのは初めてでとても緊張した。主に髭剃り、掃除、食事介助などの利用者の生活支援をおこなった。この時ふと思った。この場所は利用者の暮らす生活の場であり、私は利用者の生活のお手伝いをしているということだ。このように考えると食事の後片付けも、掃除もただの作業ではなくなる。最初は一つ一つのことをこなすのに精一杯だったが、徐々に利用者の方のことを考えて行動できるようになってきた。

記憶に鮮明に残っているのは、利用者二人と職員の方と近所のスーパーマーケットに行ったことだ。スーパーマーケットに入ると、なんとなく日常に戻ったようなほっとした気持ちになった。半日慣れない場所に居たからだと思う。車椅子を押して買い物をしていると、スーパーマーケットがいつもと違って見えることもあった。いつもは気にならないような段差や通路の狭さが気になる。私が車椅子を押すのが下手というのもあるだろうが、ぎっしりの商品で狭くなった通路を通りながら買い物をするのは大変だった。

一日色々なことを体験して福祉に関わる人の大変さが見えた。そして福祉に関わることは、少しの勇気があれば多くの人にできることだと感じた。職業とするなら知識や資格が必要となるが、普段の生活で関わるのに必要なのは思いやり、相手の気持ちを考えること、行動に移す勇気だと思う。福祉の「福」も「祉」も「幸せ」という意味を持っている。誰かを幸せにすることを福祉といって良いのなら、福祉のある風景は誰もが作り出すことができるものかもしれないと思えた。